

「出羽庄内公益の森づくりを考える」

## 第2回クロマツシンポジウムが開催されました

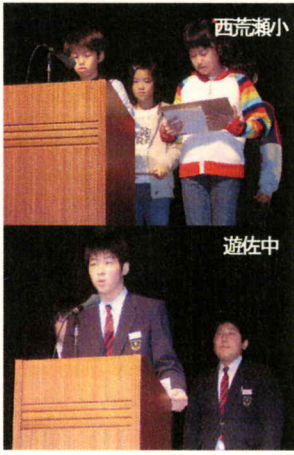
### 韓国との交流・津波を防ぐ防潮林・バイオマス…

庄内砂丘の海岸林を守り育てる機運を高めようと、昨年に引き続き二回目のシンポジウムが十一月十九日(土)に、酒田市総合文化センターで約二五〇名の参加者を得て開催されました。

このシンポジウムは、行政主導の企画でなく、「NPO庄内海岸のクロマツ林をたてる会」が主催し、「出羽庄内公益の森づくりを考える会」が協力して開催していることが特徴です。

#### ◆第一部 事例発表

今年、砂丘地の二市一町から、鶴岡市立湯野浜小学校、酒田市立西荒瀬小学校、遊佐町立遊佐中学校の活動発表が行われました。工夫をこらした学習活動の様子、また着実に継続されているボランティアの様子が紹介されました。



#### ◆第二部 映像レポート

昨年以上映して好評だった、砂防植林の映像資料に最近の映像を追加し、さらにナレーションを加えて、二五分間の「庄内砂丘防林物語」として上映しました。ナレーションが入ったことによりさらに理解しやすくなり好評でした。

また、韓国の大邱放送の特別番組「危機の松」のダイジェスト版を上映し、韓国の松くい虫事情や、韓国で放映された庄内海岸の取組の映像を紹介しました。

#### ◆第三部 公益の森づくりレポート

産・学・官・民の代表が、それぞれの立場からの報告を行いました。

山形大学農学部の中島学部長は、韓国での日韓合同の海岸林学会や、スリランカの津波被害調査の報告を、砂丘地砂防林環境整備推進協議会会長の佐藤豊昭氏は遊佐町での住民の取組みを、また、庄内総合支庁森林整備課伊與田技師は、県の出羽庄内公益の森整備事業の取組みを紹介しました。そして渡会電気土木の渡会社長は、松くい虫被害木を利用したペレットについて紹介するとともに、ペレ

ットストーブを屋外で展示実演し、広く市民にバイオマス利用を訴えました。



ペレットストーブの展示・実演

#### ◆大会決議「クロマツの歌」

クロマツの会の砂山弘理事長が、大会決議文を読み上げ、盛大な拍手のもと、今後も力を合わせて地域の宝を守り育てていくことを確認しました。そしてフィナーレは、恒例となった「日和山楽団」の演奏で、「クロマツの歌」を会場全体で高らかに歌い上げて幕を閉じました。



#### ◆翌日は「砂防林を育てよう」

翌日の日曜日は、シンポジウムで確認した理念の実行として、今年で六年目となった飯盛山地区のボランティア「砂防林を育てよう」が行われました。多くの児童生徒、学生を含む約一六〇名が、枝打ちなどの作業に汗を流しました。今年秋田県の由利地方から、シンポジウムを含めて十数名の参加があり、二日間にわたり両県の交流を深めました。



シンポジウムの翌日 飯盛山に結集したボランティア

〔庄内総合支庁森林整備課〕